

# 第13回 富士・沼津・三島 3市博物館共同企画展



# レール & ロード

富士・沼津・三島の交通ものがたり

## はじめに

私ども富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会は、平成9年に第1回共同企画展「目いっぱい!腹いっぱい!東海道」を開催してから今回の企画展で13回を数えます。

3市を結ぶ道～東海道～は本協議会のメインテーマです。今までは江戸期の東海道を中心に紹介してきましたが、近現代においても東海道は3市を結ぶ重要なパイプであることには変わりなく、逆にその重要度はますます増加するばかりです。

今回の共同企画展では、この近現代の東海道にスポットをあて、主に鉄道（東海道本線ほか）や高速道路など、3市における近代交通の歴史をひも解くと同時に、これらの交通が人々の暮らしや地域の観光にどのような影響を与えてきたかを紹介します。

〔巡回  
予定〕

会期／平成21年9月12日(土)～11月29日(日)

富士市立博物館

会期／平成21年12月6日(日)～平成22年2月21日(日)

三島市郷土資料館

主催：富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会



# 富士の交通ものがたり

♪鳥の羽音におどろきし 平家の話は昔にて  
今は汽車ゆく富士川と 下るは身延の帰り舟



## 鉄道

明治5年(1872)、品川～横浜間において、日本で初めての鉄道営業が開始されて以降、富士地域においても以下のように様々な形での鉄道の発達が見られるようになりました。

### 東海道本線

品川～横浜間の鉄道が開通して以来、江戸と京都を結ぶ、かつての東海道にほぼ沿った形で、各地で線路の敷設が行われるようになりました。特に、富士地域では、明治22年(1889)、国府津～静岡間の営業が開始することに伴い、鈴川駅(現在の吉原駅)、岩淵駅(現在の富士川駅)が開業しました。同年、静岡～浜松の開業によって、東京と神戸を結ぶ現在の東海道本線の原型が完成することとなります。その後、明治42年(1909)には富士駅が開業し、次いで昭和24年(1949)に東田子の浦駅が開業し、現在へと至っています。

### 身延線

明治23年(1890)、鈴川駅(現在の吉原駅)と大宮間に馬車鉄道が開業しました。この鉄道を運営していた富士馬車鉄道は、大正元年(1912)に富士身延鉄道に路線を譲渡し、翌年、富士駅～大宮町駅(現在の富士宮駅)に蒸気鉄道が開業しました。昭和3年(1928)に甲府まで全線開通した後、昭和16年(1941)に国有化され、現在の身延線へと至っています。

### 岳南鉄道

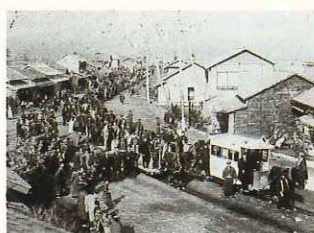
吉原駅から<sup>えのお</sup>岳南江尾駅までの9.2kmを結ぶ岳南鉄道は、昭和23年(1948)に、駿豆鉄道(現在の伊豆箱根鉄道)が、吉原と沼津市とを結ぶ鉄道を敷設する計画を立て、資本金の約半分を出資して設立されました。翌年、鈴川駅(現在の吉原駅)から吉原本町駅間が開業し、その4年後の昭和28年(1953)には岳南江尾駅まで開通しましたが、岳南江尾駅からの延伸計画は実現されていません。

### 東海道新幹線

東海道新幹線は、東京駅から新大阪駅までを結ぶ高速かつ新しい路線として、東京オリンピックが開催された昭和39年(1964)に開業しました。しかし、開業当初、富士地域には新幹線の駅は無く、地元の要望により、昭和63年(1988)に新富士駅が設置されました。

### DMV(デュアル・モード・ビークル)

近年の富士地域の移手段は、自動車に大きく依存しています。富士市では、市街地の分散化、高齢化社会・環境問題などに対応する新たな公共交通機関として、DMVの導入を検討しています。このDMVはJR北海道が開発した、マイクロバスを改造した、道路と線路の両方を走行することのできる車両です。DMVによって、鉄道駅(新富士駅、富士駅、吉原駅、東田子の浦駅)や市街地を、道路および線路(岳南鉄道)を介して結び、交通機関を乗り換えることなく、市域の東西をつなぐ計画が立てられています。



富士～長沢間  
馬車鉄道開通記念パレード  
明治42年(1909)



岳南鉄道と富士山  
昭和38年(1963)  
(石川勝久氏蔵)



新富士駅開業記念列車  
昭和63年(1988)



DMV試験走行  
平成18年(2006)





## 道路

高度経済成長期には、自動車を利用した交通がめざましい発達を遂げることとなります。それに伴い、各地で大量の自動車の交通に対応した道路整備が行われるようになりました。特に富士地域においては、これまでの大きな道路整備の一つに、東名高速道路の開通および、富士インターの建設があります。

この道路は、東京から神奈川県、静岡県を經由して、愛知県小牧市を結ぶ高速道路で、昭和30年代初頭に計画され、昭和39年(1964)から工事が開始されました。4年後の昭和43年(1968)には、富士～静岡、東京～厚木、岡崎～小牧の三区間が部分開通し、翌年には全線が開通することになりました。

東名高速道路は、名神高速道路とともに、東京、名古屋、大阪の日本三大都市を結ぶ重要な交通網ですが、その交通量の多さから、たびたび渋滞に悩まされる道路でもあります。そのため、交通量の分散、災害時の備えなどを目的として、東名高速道路に沿った形で、第二東名高速道路の建設が行われており、富士地域では、東名高速道路と接続している西富士道路と第二東名高速道路を結ぶ新たなインターチェンジが建設される予定です。



東名高速道路開通式  
昭和43年(1968)



富士インター利用2億台記念式典  
平成13年(2001)



第二東名新富士川橋建設現場  
平成19年(2007)



## 暮らし

鉄道や道路といった交通網が発達することにもない、富士地域の暮らしもまた変化することとなりました。

特に、明治時代における鉄道の発達により、製紙原料および製紙の大量運搬が可能となり、製紙の町・富士の基盤が確立されました。

また、近年では、第二東名高速道路にもない建設されるインターチェンジそばに、富士山フロント工業団地が造成され、新たな産業の発展が期待されています。



富士製紙第一工場  
大正時代末期



## 観光

鉄道や道路の発達は、富士山周辺地域の観光にも影響を与えることとなりました。特に、富士山南麓から登山を行うために静岡以西から訪れる人々にとっては、富士駅や富士宮駅、そして近年では新富士駅が玄関口となっています。

また、東名高速道路の開通後の昭和45年(1970)には富士山富士宮口新五合目にいたる富士山スカイラインが開通し、遠方から登山を行う際のアクセスが向上しました。

さらに、富士登山だけではなく、交通網の発達により、富士山周辺地域では観光開発が盛んに行われ、様々な観光施設が点在し、多くの観光客がこの地域へと訪れています。



夏の夜の光景(牧野士郎氏撮影)  
(光の線が登山客のヘッドライト)  
第2回富士山百景写真コンテストより



# 三島の交通ものがたり

♪三島は近年ひらけたる 豆相線路のわかれみら  
駅にはこの地の名と得たる 官幣大社の宮居あり



## 鉄道

三島の鉄道は、東海道本線、駿豆線(伊豆箱根鉄道)、東海道新幹線の3路線に集約されます。

### 東海道本線

明治22年(1889)に東海道本線が御殿場回りで開通しますが、この時三島には駅が設置されませんでした。東海道本線に三島駅が設置されるのは明治31年(1898)6月15日のことで、現在のJR御殿場線下土狩駅(長泉町)がそれです。



三島駅パンフレット  
昭和9年(1934)

昭和9年(1934)には丹那トンネルが開通し、現在の三島駅が開業します。宿場町として繁栄を極めた三島は、御殿場経由東海道本線の開通により急激にさびれてしまったことから、以来鉄道が三島に停車するのは町民の宿願でしたが、箱根山の下を貫通する丹那トンネルの16年にわたる大工事の末、やっと実現することとなりました。以後、三島の顔として、また伊豆への玄関口として現在に至ります。



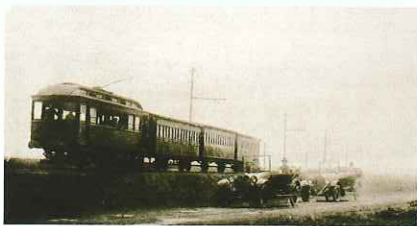
現・三島駅開業 昭和9年(1934)

### 駿豆線

明治22年(1889)、御殿場経由となった東海道本線からとり残された三島・北伊豆の人々は、三島駅の新設と中伊豆への新線敷設運動を展開し、明治31年(1898)5月20日、三島町(現在の三島田町)～南條(現在の伊豆長岡)間9.4kmが開通します。この時に大場駅も開設されます。さらに同年6月15日、東海道本線三島駅(現在の下土狩駅)開業と同時に三島町までの2.5kmも開通し、翌年には大仁まで延長され、ここを起点に乗合馬車が発着し、後に伊豆方面へのバスの起点ともなります。



駿豆線 旧・三島停車場  
昭和初期  
(伊豆箱根鉄道提供)



駿豆鉄道開通記念絵はがき  
大正7年(1918)  
(関守敏氏蔵)

その後「駿豆鉄道」と改称。昭和9年(1934)の新・三島駅開業により、駿豆鉄道も旧・三島駅への路線が廃止され、新・三島駅発着となり、現在の駿豆線となります。これにより三島は伊豆の玄関口となりました。そして昭和3年(1928)4月には三島広小路駅が、昭和7年(1932)12月には三島二日町駅が開業。昭和32年(1957)には「伊豆箱根鉄道」と改称し、現在も北伊豆の人々の重要な足となっています。

### 東海道新幹線

昭和39年(1964)の新幹線開業当初には静岡県東部の停車駅は熱海駅だけでしたが、三島には電車を整備するための電車留置線が設けられていました。このことを踏まえ、三島市は周辺市町村とともに、新幹線駅を開設するよう旧国鉄などに働きかけを行った結果、昭和44年(1969)新幹線三島駅が開業しました。新幹線の利用により三島市近郊は首都圏への通勤圏となり、現在では新幹線の利用者はJR三島駅利用者の約半数に及んでいます。また、県内では静岡・浜松に次いで乗降客が多い駅となっています。



新幹線三島駅開業時  
昭和44年(1969)



## チンチン電車

ろくたんだ  
 明治39年(1906)11月、三島六反田(現・三島広小路)～沼津  
 駅間に駿豆電気鉄道が開通しました。旧東海道の中央に電車の  
 軌道が敷設され、沿線の住民は鐘のチンチン鳴る音で電車が近  
 付くのを知ったため、「チンチン電車」と呼び親しんできました。  
 この県下初(全国では18番目)の電車は三島と沼津を結ぶ主要  
 交通機関として、昭和38年(1963)に廃止されるまで50余年活  
 躍しました。



チンチン電車(広小路付近)  
昭和38年(1963)



電車回数乗車券  
(関守敏氏蔵)

## 道路

三島の道路は、江戸時代からの東海道を中心に発展してきました。石畳の東海道箱根西坂が、自動車の通行する箱根新道(現在の国道1号)となったのは大正12年(1923)6月のことです。

以後、昭和9年(1934)の三島駅開業に伴い市街地の道路が整備され、さらに車社会化の波に乗って、昭和39年(1964)には国道1号通称三島バイパスが、昭和43年(1968)には国道136号下田バイパスが開通しました。バイパスの完成で、伊豆と三島を結ぶルートは活性化されました。



昔の下田バイパス  
昭和45年(1970)



近年の下田バイパス

しかしながら昭和44年(1969)に東名高速道路が完成し沼津インターが開業すると、週末や連休、行楽季節には伊豆方面へ向けて国道1号、136号が大変な渋滞となりました。これらを解消すべく、近年では東駿河湾環状道路として沼津市から、長泉町、裾野市、三島市を經由し、函南町に至る延長22.8kmの道路が建設されています。

## 暮らし

古くから北伊豆地方の政治・交通・宗教の中心地であった三島は、三嶋大社の門前町として東海道や下田街道を中心に発展してきましたが、鉄道の開通や国道バイパスの完成により、通勤圏や商業圏が拡大し、隣接する沼津、長泉、清水、函南各域合わせた広域的な都市地域を形成してきました。

都市化という側面では新幹線三島駅開設が契機となり、箱根西麓部に宅地造成が進展し、また、国道136号下田バイパスと共に沿線の中郷地区も発展し、沿道には各種工場を始め、自動車関連等の商店が多く進出しました。



国道1号三島バイパス開通式  
昭和39年(1964)

## 観光

三島は富士箱根伊豆国立公園のほぼ中心地に位置しており、伊豆の温泉地へアクセスする駿豆線の起点として、また東名高速道路から伊豆方面への主要道である国道136号の接続点として、古くから伊豆半島の観光地への玄関口としての役割を担ってきました。

昭和44年の新幹線三島駅開業により「伊豆・箱根・富士五湖観光の拠点」「中京関西からの観光客集客」などが波及効果として予想されました。しかし、三島は交通立地的には有利な位置にありますが、観光立地的には通過点としての位置に立たされていることから、現在も三島を通過する観光客に対する有効策を進めています。



伊豆国田方郡温泉探勝案内図  
(関守敏氏蔵)



# 沼津の交通ものがたり

♪沼津の海に聞こえたる 里は牛我入道  
春は花さく桃のころ 夏はすずしき海のそば

沼津は県内で初めて鉄道が開通した町です。明治20年(1887)、東海道本線敷設の工事資材を輸送するため、沼津停車場(沼津駅)設置場所<sup>じやまつ</sup>～蛇松間に開通した「蛇松線」が、県内初の鉄道です。東海道本線開通後は沼津駅～沼津港で木材・貨物等を搬送していましたが、自動車輸送の発達等により昭和49年(1974)に廃線、線路跡地は、現在、蛇松緑道として市民に親しまれています。

明治22年(1889)、東海道本線開通当時の沼津～国府津間は、現在の御殿場線経由で急勾配のため、沼津駅で後押し<sup>おし</sup>の機関車を連結する等、沼津駅は東海道本線の拠点として発達し、明治33年(1900)には原停車場(原駅)が開業しました。

昭和9年(1934)に丹那トンネルが開通、東京～沼津間が電化されましたが、沼津以西が電化されるまでの間、電気・蒸気機関車の交換駅として、沼津はいっそう、重要な役割<sup>に</sup>を担いました。

丹那トンネルの開通により改称された御殿場線に、昭和21年(1946)大岡駅が、昭和61年(1986)、東海道本線に片浜駅が開業し、現在は市内に4つの駅があり、1日平均で約3万人の人達が利用しています(平成19年)。

また沼津は県内で初めて電車が運行された町でもあります。明治39年(1906)、駿豆電気鉄道(現在の伊豆箱根鉄道)が沼津駅～三島六反田(現在の広小路)間で電車を運行、「チンチン電車」と親しまれましたが、バス輸送等の発達で昭和38年(1963)廃線になりました。

急激な自動車社会の発達は、交通量の増加に伴う道路網の整備に繋がりました。

昭和44年(1969)、東名高速道路沼津インターチェンジが開通し、伊豆方面に向かう道路網の基点として、平成19年には沼津インターチェンジを約1,160万台の自動車を利用しています。また国道1号が市街地を通過していたため、昭和55年(1980)に国道1号沼津バイパス(現在の国道1号)が、昭和63年(1988)に東名高速道路と連結する国道246号バイパス(現在の国道246号)が開通、現在はさらに円滑な交通網の確保を図るため、国道246号と国道1号を結ぶバイパス、伊豆方面への環状道路の建設等が進められています。

県内有数の海岸線に面する沼津は、西伊豆方面への海上交通の拠点でもありました。

かつての沼津港は川岸港であり、現在でも永代橋～御成橋間にその面影を残しています。しかし、川岸港は土砂の堆積<sup>たいせき</sup>等のため、川底の浚渫<sup>しゅんせつ</sup>や大きな船は接岸できない不便さがありました。このため昭和8年(1933)、現在の場所に沼津港が移設され、昭和45年(1970)には大型船が接岸できる外港が完成しました。

明治時代から始まった汽船による沼津港から西伊豆地方への航路は、当初、乗客や貨物を輸送する役割を担ってきましたが、道路整備や自動車の発達等により次第に観光としての性格を強め、海底<sup>のぞ</sup>を覗くことができる海底透視遊覧船「龍宮丸」<sup>りゅうぐうまる</sup>が人気を集めました。

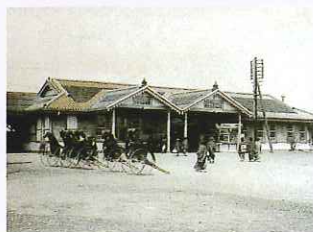
現在は高速船ホワイトマリンが、沼津～戸田～土肥を結び、駿河湾から富士山を眺めながら行く西伊豆方面への海上交通として、人気を集めています。



蛇松線写真  
(沼津市明治史料館蔵)



沼津～三島間路面電車写真  
(沼津市明治史料館蔵)



絵葉書「沼津町停車場」  
(沼津市明治史料館蔵)



「龍宮丸」写真  
(株)伊豆箱根鉄道提供)



# 富士・三島・沼津の交通年表

富士の出来事と交通史	三島の出来事と交通史	沼津の出来事と交通史	年代		社会のできごと
			和暦	西暦	
品川～横浜間で鉄道営業開始(10月14日→鉄道記念日)宿場の助郷制度廃止			明治 5年	1872	・富岡製糸場操業開始
東海道本線の大阪～京都間営業開始			明治 9年	1876	・廃刀令交付
日本鉄道が宇都宮駅開業、日本初の駅弁が販売される。(おにぎり2個とたくあん)			明治18年	1885	・内閣制度発足
		沼津機関庫設置	明治19年	1886	・学校令制行
		蛇松線開業	明治20年	1887	
富士川鉄橋完成			明治21年	1888	
東海道本線の国府津～静岡間が開業(2月1日、国府津～沼津間は現在の御殿場線を使用)					
東海道本線全通(7月1日)新橋～神戸間 日本各地で鉄道が開業			明治22年	1889	・大日本帝国憲法発布
鈴川駅・岩淵駅(現在の吉原駅・富士川駅)開業		沼津駅開業			
東海道本線鈴川～大宮間に富士馬車鉄道を開業			明治23年	1890	・第1回衆議院議員総選挙
	豆相鉄道設立		明治26年	1893	
	東海道本線に「三島停車場」(現下土狩駅)設置				
	「豆相鉄道」開通(現伊豆箱根鉄道)、下土狩～伊豆長岡		明治31年	1898	
	豆相鉄道、大仁まで延長		明治32年	1899	・東京～大阪間に電話開通
		原駅開業	明治33年	1900	・上野・新橋駅に初めて公衆売店が設置される
	鉄道唱歌(東海道篇)発行				
	三島六反田駅(三島広小路駅の前身)～沼津間にチンチン電車開通		明治39年	1906	・鉄道国有法公布
	自家用車が三島に現れる		明治40年	1907	・義務教育6年間となる
富士馬車鉄道、富士鉄道に改称			明治41年	1908	
富士駅開業			明治42年	1909	・伊藤博文暗殺
富士～長沢間富士馬車鉄道開通					
富士身延鉄道設立			大正 元年	1912	・明治天皇崩御、大正に改元
富士～長沢間、入山瀬～大宮間の富士馬車鉄道を廃止、富士～大宮間の蒸気鉄道開業					
入山瀬駅、富士根駅、大宮町駅開業	三島にハイヤーが走る		大正 2年	1913	
	東海道本線丹那トンネル工事開始				
	丹那トンネル工事のため資材運搬用の軽便鉄道が大場駅から函南町大竹の工事現場まで敷かれる		大正 7年	1918	・シベリア出兵
	三島～軽井沢間バス開通		大正 8年	1919	・ベルサイユ条約締結
	三島～沼津間バス開通		大正10年	1921	・メートル法公布(1924年に採用)
	箱根新国道開通				
	駿豆線修善寺まで延長		大正12年	1923	・関東大震災
	熱海駅開業		大正14年	1925	・ラジオ放送開始
	三島広小路駅開業		昭和 3年	1928	・大相撲のラジオ実況開始
	三島二日町駅開業		昭和 7年	1932	・富士山頂に気象観測所開設
	丹那トンネル貫通 東京大阪間夜間定期郵便飛行開始		昭和 8年	1933	・満州国建国
鷹岡村が鷹岡町となる	丹那トンネル開通 熱海～沼津間が電化複線で開業、				・三陸地方大地震
国府津～御殿場～沼津間は御殿場線として分離、東京～神戸間が現在のルートで完成	現・三島駅開業 伊豆箱根鉄道は現・三島駅を起点に路線変更		昭和 9年	1934	・室戸台風
富士身延鉄道国有化	三島町と錦田村合併により三島市誕生				
		大岡駅開業	昭和16年	1941	・真珠湾攻撃で太平洋戦争開戦
		蛇松線は沼津港線に改称	昭和21年	1946	
			昭和22年	1947	
岳南鉄道設立 吉原町が吉原市となる			昭和23年	1948	・福井大地震
東田子の浦駅開業					
岳南鉄道鈴川駅(現・吉原駅)～吉原本町駅間開業			昭和24年	1949	・湯川秀樹が日本人初のノーベル賞受賞

駅弁の  
いま・むかし

富士



竹取物語



上等御辨當(大正13年)

三島



清流うな重



※「東海道本線」という名称は明治42年の命名ですが、本書ではそれ以前についても便宜的に「東海道本線」を使用しております。

富士の出来事と交通史	三島の出来事と交通史	沼津の出来事と交通史	年代		社会のできごと
			和暦	西暦	
大昭和製紙(現:日本製紙) 富士工場専用線運行開始			昭和26年	1951	・NHK紅白歌合戦ラジオ放送 ・日本初の民間ラジオ局が開局
岳南鉄道全線開通	二級国道136号下田三島 線開通		昭和28年	1953	・NHKが日本初のテレビ放送を開始 ・日本初の民間テレビ放送開始
富士町・田子浦町・岩松村 が合併し、富士市となる	三島市と中郷村合併		昭和29年	1954	・昭和の大合併進む
	県道21号三島裾野線開通 東海道本線全線電化完成		昭和30年	1955	・高度経済成長の開始
	三島町駅から三島田町駅 へ名称変更		昭和31年	1956	・日本が国際連合に加盟
	東海道新幹線建設計画承認 東京～大阪間で、国鉄初の電車特急「こだま」が運転開始		昭和33年	1958	・狩野川台風 ・東京タワー完成
	東海道新幹線工事着工 伊豆急行線開業		昭和34年	1959	・メートル法実施
		大雨により黄瀬川橋流出 のため、チンチン電車区間 の一部がバス代行運転	昭和36年	1961	・NHK朝の連続テレビ小説放送 開始
	名神高速道路栗東～尼崎間が開通(日本初の高速道路)	沼津～三島間チンチン電車の廃止	昭和38年	1963	・テレビアニメ「鉄腕アトム」放送 開始
	東海道新幹線開業(熱海駅・静岡駅・浜松駅開業)		昭和39年	1964	・東京オリンピック開催
	国道1号三島バイパス開通		昭和40年	1965	
	名神高速道路全線開通(西宮～小牧間)		昭和41年	1966	・日本の総人口1億人突破 ・ビートルズ来日
吉原市・富士市・鷹岡町が 合併し、富士市となる			昭和43年	1968	・川端康成、ノーベル文学賞受賞
東名高速道路部分開通(東京IC～厚木IC、富士IC～静岡IC、岡崎IC～小牧IC)	国道136号線下田バイパス完成 東名高速道路全線開通		昭和44年	1969	・テレビアニメ「サザエさん」放送 開始
国鉄身延線が西回りに変更・複線化 東海道本線岩淵駅、富士 川駅に改称 駿河湾カーフェリー田子 の浦港と土肥港間に就航	東海道新幹線三島駅開業	沼津インターチェンジ開通	昭和45年	1970	・「よど」号ハイジャック事件 ・日本万国博覧会開催
			昭和46年	1971	・マクドナルド日本1号店開店
	日本の鉄道開業100年		昭和47年	1972	・沖縄県、日本に復帰
	七夕豪雨の影響で、静岡鉄道清水市内線が廃止	沼津港線廃線	昭和49年	1974	・七夕豪雨
国道1号富士由比バイパス 全線開通 蓼原大橋開通			昭和50年	1975	・沖縄国際海洋博覧会開催
	国道1号線沼津バイパス今井～沼津一本松間が部分開通		昭和52年	1977	・白黒テレビ放送廃止
田子浦臨港線が部分開通		国道1号沼津バイパスが 全面開通	昭和53年	1978	・日中平和友好条約調印
国鉄の東海道本線富士川橋梁が台風10号の影響により流出 潤井川大橋開通 東海道新幹線新駅設置決定			昭和55年	1980	・静岡駅前地下街爆発事故
		運転免許保有者5000万人突破	昭和57年	1982	
			昭和59年	1984	・グリコ・森永事件
	ひかり号三島駅停車		昭和60年	1985	・科学万博つくば'85開催 ・日航航空123便が御巣鷹山に墜落
		片浜駅開業	昭和61年	1986	
東海道新幹線新富士駅開業	国鉄分割民営化		昭和62年	1987	・携帯電話サービス開始
			昭和63年	1988	・リクルート事件
	第二東名高速道路・新名神高速道路起工		平成 7年	1995	・阪神・淡路大震災 ・地下鉄サリン事件
県道富士裾野線今宮バイパス の一部が完成、供用開始			平成 11年	1999	
DMV岳南鉄道線で走行試験 富士市・富士川町が合併し、 現在の富士市となる		沼津市と戸田村が合併	平成17年	2005	
			平成18年	2006	
			平成20年	2008	・北京オリンピック開催
	富士山静岡空港開港		平成21年	2009	
	東駿河湾環状道路部分開通(沼津岡宮IC～三島塚原IC)				



特製お好み弁当(昭和44年)



港あじ鮎



上等御辨當(昭和8年)

協力:富陽軒(富士)  
桃中軒(沼津・三島)

